

推薦文⑤ Mr. 津田 英信 (1988年・農学部卒, コスモスイニシア社)

ミニ MBA 塾受講の推薦—前例なき時代を生き抜くみなさんへ

「2011年度にアメリカの小学校に入学した子どもたちの65%は、大学卒業時(2027年)に今は存在していない職業に就くだろう」

この米デューク大学/キャシー・デビットソン氏のニューヨークタイムズのインタビュー記事は衝撃的だ。だが冷静に考えれば日本においても十分にリアリティのあるシナリオである。2027年と言えはわずか12年後。現時点で50歳を超えている方々は今までの経験の延長で定年まで全うできるだろう。しかし今40代以下の方々にとっては、これからのビジネスマンに求められる要素が今までと抜本的に異なる時代が来るということを強く自覚しておいた方がよい。

これまでの学校教育及び受験界の問いには基本的に「正解」があって、その「正解」にいかにか短時間で正確にたどり着けるか、が優秀さの尺度であった。会社務めにおいても入社10年目くらいまでの仕事というのは、恐らく社内に模範解答(事例)があって、その模範解答に効率よくクオリティ高く仕上げられる人間が優秀と評価される。

しかし、これからの時代に模範解答はない。自分で情報を集め、自分のアタマで深く思考し、未来を予測し、リスクを想定しながら、進むべき道を意思決定し、実行する。これを短期間で繰り返すのだ。そういう力はただ単に会社と家を往復しているだけでは決して身につかない。多くの会社員は機能別組織の一機能を担当しているからだ。もし、あなたが将来ビジネスにおいてリーダーシップを発揮されたいとお考えなら、ワーク以外の時間を使って幅広い知見を得る為の努力をするしかない。

人間の脳は、全く知らない情報にはあまり反応しないそうである。例えば日経新聞を全ページ開いてみて、自分の脳が反応するニュースは一体いくつあるだろう。それが今のあなたの現実だ。

大変僭越ながらミニ MBA 塾の私にとっての価値を述べてみたい。

- ①テキスト&授業で強制的に経営全般についての知識の裾野を広げ、
 - ②広がった関心領域に関連する記事を自身のセンサーでキャッチし、
 - ③そのニュースからの学びと自社の置かれた状況との関連性を無理繰りでもレポートにして論じ、
 - ④他者の意見から一つの事象に対する色々なモノの見方を知る。
- これを繰り返すことで、経営的な脳の使い方のトレーニングができることだ。それから大住先生の生の海外からの視点を数多く聞いたことも私にとっては貴重だった。

これからの前例なき時代を生き抜く皆さん、このミニMBAを足掛かりに更に高く広い世界を目指して躍進していかれることを期待しています。

迷ったら Go !

推薦文⑥ **Mr. 三宅 史朗** (2003年・工学部機械工学科卒, 富士ゼロックス)

私は、機械工学科出身ということもあり、入社して10年あまり、商品開発の業務に携わってきておりましたが、最近は工学だけでなく、ビジネスという観点で業務上、知識を要す（実際は悩む）場面が増えておりました。そんな中、ビジネスの基本を学びたいと思っていたところ、運用良くこのミニMBA講座を知りました。

それまで何度かMBA関連のビジネス本にトライしては挫折しており、また（ゴルフ等でも）独学・我流の限界も痛感しておりましたので、この時とばかり申し込みをした次第です。

実際、大住先生のテキストと豊富なビジネス経験をもとにした講義によって、MBA全科目を体系的にそして各科目のエッセンスを効率よく学習することができました（やはり独学ではポイントを掴むのが困難）。

最初は慣れないところもあり、事前学習や講義後のレポート作成に時間がかかったりしましたが、半年を過ぎた頃から、苦にならなくなり、また、学習した科目の内容が繋がってきて、自身の業務と関連させて考える機会が増えました。

その場合、講義で紹介された本を読んで更に理解を深めようとしたり、業務をそれにあわせて顧みたり、正のスパイラルみたいなことが何度か訪れたことがありました。そのときは学ぶこともそうですし、仕事も楽しく取り組みました。月に1回のペースで約1年間。社会人として過度な負担なく受講、一方で事前学習と講義後のレポートが義務付けられていることから、働きながら学ぶという観点で、最適な講義と思います。理論・原理・原則を知らなくても日々の業務は出来るかと思いますが、それを知ることによってより世界が広がり、視座を高めることに繋がるかと思います。

ミニMBA、興味ある方は是非受講されることをお勧めします。

三宅史朗(03年 工学部機械工学科卒)